

～もっと動かしやすく。あなたの毎日のために。～

脳卒中後 手足のつっぱり相談外来のご案内

💡「痙縮(けいしゆく)」とは？

脳卒中の後遺症として、筋肉が勝手に縮こまってしまう状態を「痙縮」と呼びます。

放っておくと、関節が固まってしまったり、日常生活に大きな支障をきたすこともあります。



✓ このような症状でお悩みではありませんか？

- 手や足がつばって思うように動かせない
- 手がグーのまま開かない、腕が曲がったままでつらい
- 足がピンと張って歩きにくい、つまずきやすい
- リハビリを頑張っているのに、なかなかよくなる
- ボトックス注射のことを聞いたことはあるが、よくわからない

⊕「痙縮専門外来」ではこのようなことができます

- ✓ 医師による痙縮の評価と治療提案
- ✓ **ボツリヌス療法（ボトックス注射）**によるつぱりの緩和
- ✓ 装具・リハビリとの連携による動かしやすさの改善支援
- ✓ 患者さんやご家族の不安や疑問に対する相談対応

📍 ボツリヌス療法とは？

痙縮している筋肉に「ボトックス注射」を行い、緊張を和らげる治療法です。効果は数ヶ月持続し、リハビリと組み合わせることでより効果が期待できます。

※診療はすべて保険診療です。保険適応外診療は行っておりません

- 担当医師：田中 寛大（近畿大学 脳卒中センター 講師）
- 診療時間：毎週木曜日 13時00分～15時30分（要予約）
- お問い合わせ先：まずはお気軽にご相談ください。

病院 外来受付 06-6672-3121

地域連携室（医療機関からのご予約）06-6672-3527



地域を愛し、地域に愛される病院へ

友愛会病院 脳神経外科